様式 4

平成 2 4 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立皆生養護学校
 学校長 松 本 剛 一

評 価 日	平成 2 5 年 2 月 2 0 日 (水)	
評 価 ・ 提 言	学校の所見・改善策等	
<p>1. 今年度の自己評価について</p> <p>(1) 重点目標の達成状況</p> <p>【資料】・平成 2 4 年度学校自己評価表</p> <p> ※各学部評価</p> <p> ※各分掌評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート前期(回収率 8 9 %) ・保護者アンケート後期(回収率 9 0 %) <p>●一人一人に視点を当てた学習指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・客観的映像について子どもの目線を大切に評価すると良い。 <p>●18歳の自立を見据えた進路指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の評価が中間評価と比べ 2 段階アップしていることはよく頑張っている証拠である。働くことは何なのかを 教えることが一番大切である。 ・新規の職場開拓はどうか。現場実習先が変わっていないのではないか。 <p>●ニーズに対応できる専門性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性として必用な事の一つに子どもの適性を見極めることがとても重要である。 <p>●センター的機能の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価が中間評価と比べ 2 段階アップしていることはよく頑張っている証拠である。 <p>●社会に繋ぐ活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に、相談先について入学時に話をしてあげると安心される。学校では担当がはっきりとしているが、卒後はどこに相談して良いか分からないことが多い。 <p>(2) 説明・公表について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<p>→ご意見を参考にさせていただく。</p> <p>→「進路指導の手引き」を保護者と教員へ配布している。これを今後しっかりと活用していく。</p> <p>→新規の職場開拓は P T A と協力しながら行なっており、若干ではあるが増えている。実習先は同じでも実習している生徒は毎年異なっている。</p> <p>→そのためにも実態把握を今後もしっかりと進めていく。</p> <p>→今後もしっかりと取り組んでいく。</p> <p>→「進路指導の手引き」を保護者と教員へ配布している。これを今後しっかりと活用していく。</p> <p>→学校評価(保護者アンケート)</p>	

<p>2. 学校運営への提言</p> <p>☆保護者と教員の連携について 高校生ぐらいになると、親の知らない秘密がなければいけない。親は全部を知ろうとしない。健康面等これだけほと教えてほしいという点は譲れないにしても、日々の取り組み、何を学んだかは、子供にとってステップなので全部を知らなくても良い。</p> <p>☆ホームページについて 25%の見ていない人はそのままにしておけば良い。自分で情報収集するのが当たり前の時代である。見るか見ないは、本人の選択である。全員に見てもらおうとすることは、無駄な労力になる。自分が知ろうとすることが大切。そのように少しずつシフトを変えていけば良い。</p> <p>☆時間厳守について 時間にルーズな教員がいる。（朝の出勤、授業開始等） 医ケア等の必要な生徒も多い。ゆとりをもって仕事をする ことが大切である。</p> <p>☆分教室の設置について 商店街の空き施設を活用し分教室を設置し、そこで制作、販売の授業を行い、一般の人に見てもらおうような取り組みはどうか。商店街の活性化にもなる。</p>	<p>の集計結果については、保護者に配布予定。学校の自己評価最終評価については、ホームページで公開（3月下旬）</p> <p>→各年代における保護者のあり方についてPTAでも話題に上げていく。</p> <p>→情報を伝えていく方法は今後もいろいろ工夫していきたいと考える。</p> <p>→職員への指導は常に行っていく。</p> <p>→教育課程等いろいろな検討を行う必要がある。</p>
---	--